

# ちいさなくに - in a small realm

中根 秀夫 映像上映会

さいたま国際芸術祭 2020 美術と街巡り事業 | うらわ街中 2020

## ▶ 関連企画 2

@「もういちど秋を」 かみむら泰一 即興ライブ

3月28日(土) 14:00~15:00

かみむら 泰一 | tenor & soprano sax

中根 秀夫 | images

## もういちど秋を - try to remember

詩: 武田多恵子 音楽: かみむら泰一 映像: 中根秀夫

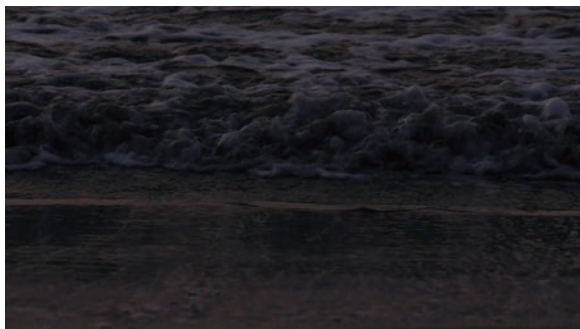
この映像は、「もういちど秋を - try to remember」展 (2016年 GALERIE SOL) で有声、「海のプロセス-言葉をめぐる地図」展 (2017年/東京都美術館) では無声、「もうひとつのもういちど秋を」展 (2019年/Gallery Nayuta) で有声/無声版が上映・展示された。

## ■ prologue

『もういちど秋を』は、武田多恵子の3つの詩集「麦の耳」(1986年)「流布」(1993年)「蜜月」(2013年)から20編の詩を抜粋し、1年の季節を巡るように5つのユニットに仕分け、さらに「もういちど秋を」という序章を加えて再構成された映像詩である。武田の詩に、サクソ奏者かみむら泰一が音楽、中根秀夫が映像を担当し、1年間をかけて制作された。

ひとつの詩はひとつの時間をはらみながら、他のもうひとつの詩とその時間に接続する。詩の中の時間はそれぞれの記憶を持ち、その記憶はひとつの詩という枠を超え、過去とも未来とも自由に接続することが出来る。ひとりの作者の記憶はもうひとりの者の記憶へと接続され、その記憶はさらにまたひとりの別の記憶とつなぎ合わされる。そのようにして、記憶は少しづつそのポジションを変えながら私たちの空間を拡張し、またそれを満たしていく。

このプロローグのみ詩は字幕で示されている。冬の早朝、日の出直前の海で。



目をつむればいつも  
澄んだ空を渡ってくる風と  
同じやさしさに包まれて  
私たちは佇んでいる  
永遠にあの日の秋の中

『もういちど秋を』

## ■ unit 1

2016年3月の浦和での展示で、試験的に武田(詩)/中根(映像)による「Unit 1」(ただし音声無しのバージョン)を公開したが、新たにかみむらの「音」を加えてレコーディングをし、映像も繋ぎ直した新しいバージョン。ここで取り上げた幾つかのモチーフは今後のユニットに繋がる。



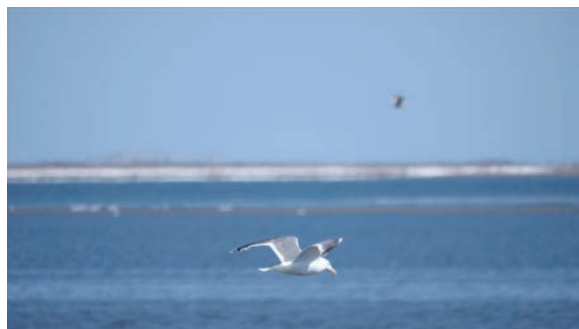
木の名は問わない

- 1-1. 版画論 (3) 風景
- 1-2. 1日の千の秋
- 1-3. 掌の森 (II) 森の椅子
- 1-4. 予め失われた恋人たち

武田多恵子 / 『蜜月』(1-1, 1-3, 1-4) 『流布』(1-2)より

## ■ unit 2

「Unit 2」は物語の展開の場面でもあり、急激に速度を増しながら流れていく章でもある。私も武田の詩について全てを理解できていくわけではないし、それは無論不可能だろう。だが映像に於いてその解釈されない部分を解釈されないまま残すのは、ある意味では見る者にとっての自由が残されているわけで、見る者の記憶がそれを補うだろうと思っている。あるいは未解釈とされた部分は別のユニットに接続された時にまた、再び語り始めることもあるだろう。



飛ぶ形が青い

- 2-1. 四月の魚
- 2-2. 劣情 No.5 - 猫に
- 2-3. 接吻試論
- 2-4. 真夜中の動物園
- 2-5. 函

武田多恵子 / 『流布』より

### ■ unit 3

「Unit 3」に「会期を終えたばかりの美術館は 九月の海に似ている」という詩の一節があり、海に近い鎌倉の美術館で撮影をさせてもらった。この建物も2016年3月に閉鎖され、今はただただ懐かしい。映像では「プロローグ」の終盤と3-3、3-5. に少しだけ登場する。



会期を終えたばかりの美術館は  
九月の海に似ている  
忘れられたサンダル パラソルの柄

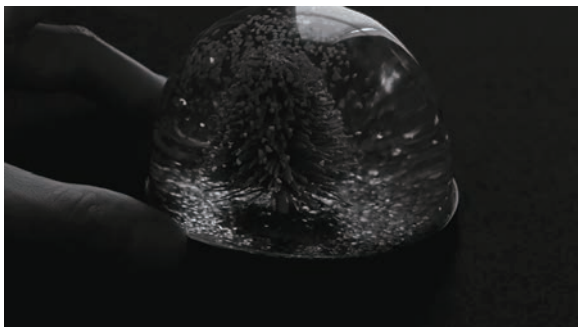
- 3-1. 海へおいでよ
- 3-2. 鷗
- 3-3. 夢の海 '72
- 3-4. 海の夢 '85
- 3-5. 麦の耳

武田多恵子 / 『麦の耳』より

### ■ unit 4

『もういちど秋を』では、5つのユニット全体をつなぐ「海」あるいは「鳥」などの言葉が重要な要素となっている。「Unit 3」では、「鷗」が詩の一編として独立した存在を示していたが、それ以外のユニットでも直接／間接を問わず、カメラは自分の内面と重ね合わせるように「鳥」の姿を捕らえている。今回の「Unit 4」では「丹頂鶴」をめぐり物語が展開する。

「Unit 4」は「冬」をテーマに編まれているが、例えば『冬の麦』のように、「麦秋」という言葉から派生させたであろう武田自身によるイメージとして「ゴッホの7月」に心を寄せて描いた「概念的な冬」もその中に含まれている。「Unit 1」で使用した模型の木も再登場。



踊らない日付け  
コップの中の吹雪

- 4-1. 掌の森 (Ⅲ) 雪は踊っている
- 4-2. 積雪扉
- 4-3. 冬の麦

武田多恵子 / 『麦の耳』(4-1, 4-3) 『流布』(4-2)より

### ■ unit 5

『もういちど秋を』最終章。扱われるのは抽象度が高い詩篇だが、詩は新たに読み直され、現在の私たちそれぞれの日常に引きつけて考えるべきだろう。今回のプロジェクトではいろいろな「海」の映像を撮ったが、特に福島の海は忘れられない。あなたも忘れられない「海」や「街」があるだろう。

そして、「もういちど秋を...」。



糸くずに紛れて  
紅に沈むひと日があるなら  
夢は夢の場所へ帰るだろう  
悲しみは悲しみの場所へ帰るだろう

- 5-1. ふたつのみみ
- 5-2. 合歓
- 5-3. 盗む日 (Ⅷ) バイ・バイ・ブラックバード
- 5-4. 流布

武田多恵子 / 『蜜月』(5-1, 5-3) 『麦の耳』(5-2) 『流布』(5-4)より

ちいさなくに - in a small realm 中根秀夫上映会

会期： 2020年3月27日、28日  
会場： さいたま市民会館うらわ ホール

#### 関連企画資料

1. 新作映像プロジェクション・ヴォーカル・インプロヴィゼーション ライヴ  
出演： 渡邊ゆりひと・中根秀夫 (都合により開演時間が変更されました)
2. @「もういちど秋を」即興ライブ  
出演： かみむら泰一・中根秀夫

テキスト： 中根秀夫

COPYRIGHT © 2020 hideonakane.com All rights reserved.

#### 【おことわり】

本上映会および関連企画の開催につきましては、右のQRコードより、特設サイトの最新情報を必ずご確認ください。やむを得ぬ事情によりプログラムの変更・中止の可能性あります。中根のホームページでも逐次情報を更新しています。 <https://hideonakane.com>



▶ 予告 7月24日～8月9日に銀座 Gallery Nayuta、10月には日本橋 galerieHにて関連する展示を行います。どうぞお楽しみに。